

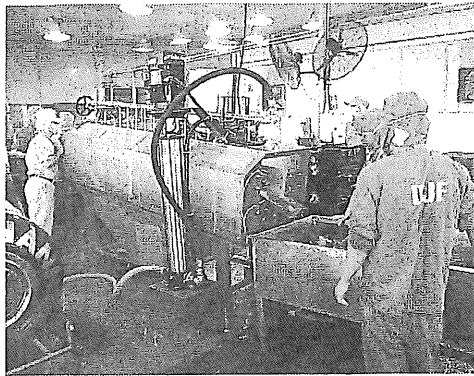
加工食品の品質向上につなげる(ベトナムに納入した異形根菜類洗浄機)

農機・装置開発のエフ・イー

東南アジア市場開拓へ

ベトナムに根菜類洗浄機

ミャンマーも



農業機械・装置開発のエフ・イー(旭川市)は東南アジア市場の開拓に乗り出した。第1弾としてベトナムの食品加工会社に異形根菜類洗浄機を供給、ミャンマーでも商談に入った。来春、両国を結ぶ「東西経済回廊」が全面開通するのをにらみ、現地で野菜や加工食品の輸出を拡大したい日系企業を後押しする。また、野菜選別機部品の製造委託先を中国から台湾に変更し、競争力を高める。

地域とアジア

ベトナム・ラムドン省にある「ダラットジャパンフーズ」に、異形根菜類洗浄機を納入した。同

社は京果食品(京都市)が出資する現地法人。冷凍野菜・果物、生鮮野菜などを加工生産し、日本に逆輸出している。立地するダラット高原は昼夜の寒暖差が15度を超え、良質な野菜を供給できるほか、赤土でサツマイモの栽培にも適しているという。工場ではHACCP(ハサップ)などの衛生基準認証を取得し、鮮度、洗浄、温度管理など厳しく管理する。異形根菜類洗浄機はサツマイモの洗浄に使う。洗浄機は特殊ブラシを独自の配列で配置し、イモが回転しやすく、複雑な形状の根菜類でも高圧水で凸凹部分も含めきれ

いに洗える。手洗い作業を効率化し、洗浄能力も高められる。東南アジアではミャンマー東部モーラミヤインから、タイ、ラオスを経てベトナム・ダナン港を結ぶ「東西経済回廊」が来春に全面開通する予定だ。南部経済回廊と合わせた物流網の確立で「適地の野菜や加工食品を日本に効率的に輸出できる体制が整いビジネスチャンスが広がる」(エフ・

イーの佐々木道彦社長)とみる。現在はミャンマーの日系食品加工会社とも野菜洗浄機などの商談を進めている。今後、潜在需要の高い東南アジア各国で

販路拡大をめざす。一方、野菜の形状選別機で規格外品をトレーに落とすフィンガー部の製造委託先を、中国・深圳から台湾・台中の部品製造会社に切り替えた。従

来は10万個生産するうちの不良品率が5%と高かったが、変更により0.5%に改善した。歩留まり率向上で装置開発のコスト削減につなげ、輸出競争力を高める。